



## 知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945 年生まれ。1968 年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004 年に退職。Facebook 上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



### 宮本武蔵の実像とは

武蔵の名を決定的に高めたのは、昭和 10 年から 4 年間にわたって朝日新聞に連載された吉川英治の「宮本武蔵」であろう。連載が始まる 3 年前には菊池寛と直木三十五の間で大論争があったが(菊池の武蔵達人説に対して直木は非達人説を唱えた)、吉川の小説によって武蔵=剣の達人が確立され、求道者、剣聖としての武蔵像が定着してしまった。

その後、多くの作家が武蔵を取り上げて書いているが、吉川英治の武蔵像を覆すには至っていない。吉川英治以外では「よじょう」(山本周五郎)、「宮本武蔵」(津本陽)、「宮本武蔵の女」(山岡荘八)、「真説 宮本武蔵」(司馬遼太郎)などを読んだが、400 年以上前の(資料のほとんどない)人物を評価するのは至難の業だということがよく解る(山本周五郎は吉川作品に対して批判的である)。

個人的には「黒染の剣」(澤田ふじ子著、武蔵は脇役で登場)で描かれた目的のためには手段を選ばない武蔵が実像に近い(とくに若き日の武蔵は)のではないかと考えている。

### 桔梗信玄餅の包装

山梨県を代表する銘菓「桔梗信玄餅」は、おいしいのはもちろん、包装が風呂敷状になっている





## FIWA®通信「インベストライフ」

のが特徴である。発売されたのは昭和 43 年、きな粉のかかった柔らかいお餅に黒蜜をかけて食べるお菓子だ。

なぜ、風呂敷状の包装になっているかといえば、発売した当時、商品をパックする機械を購入する資金がなかったからだ。そのため仕方なく、手作業で商品を包んで発売したところ、この包装も話題となって大ヒットした。従業員が930名になった現在も手作業で包装しているという。

桔梗信玄餅は、「信玄」と銘打っているが、武田信玄とは関係はない。ただ、山梨県を代表するお土産になってほしいという願いから、その名前が付けられたのである。



・写真は桔梗屋のホームページから

### 世論は「よろん」or「せろん」

「世論」の元々の漢字は「輿論」だった。それをやさしい漢字にするために「輿」を「世」に変えて「世論」とした（「輿」は昭和 21 年に公布された当用漢字に含まれなかった。当用漢字昭和 56 年には常用漢字として公布された）。「輿」は「こし」と読み。「お神輿」の意味だ。多くの人が「お神輿をかつぐ」ことから、世間の人の意見のことを「輿論」といつていた。だから、正しくは「よろん」であり「せろん」ではない。

しかし、「世論(よろん)」は「与論」と間違えやすいことから、「せろん」とも呼ぶようになり、現在ではどちらでもよいことになっている。大半の国語辞典では「よろん」(輿論/世論)、「せろん」(世論)両方の見出しとなっている。

### 日本橋をローマ字で書くと？

日本橋をローマ字表記する場合「Nihombashi」「Nihonbashi」のように「m」と「n」の 2 種類の表記がある。駅の場合は「m」で、道路や銀行は「n」になっている。これは駅名表示の場合はヘボン式ローマ字を使っているためだ。ヘボン式の場合は「b」「m」「p」の前にくる「n」を「m」にするという取り決めがある。英語でも「hamburger」「hammer」「jump」などがある（英語圏の人には「n」より「m」の方が読みやすいという）。





「m」を使う駅名には日本橋駅のほか、新橋駅「shimbashi」、神保町駅「Jimbocho」があり、多くは新宿（Shinjuku）、銀座（Ginza）、五反田（Gotanda）のように「n」を使う駅名の方が多い。

### 尖閣諸島小史

- ・明治 10 年代、古賀辰四郎氏（福岡県出身の実業家）は、茶販売や夜光貝（ボタン材料）の事業で成功、石垣島に支店を出す。
- ・明治 10 年代半ば、石垣島の漁師たちの間で、尖閣諸島に無数のアホウドリがいるという噂が広がる。
- ・古賀氏は島に調査隊を派遣、その結果、アホウドリだけでなく漁場としても有望と判断し、開拓許可を 1885 年（明治 18 年）日本政府に申請。
- ・しかし、すぐには許可が下りなかった。政府は周辺海域を調査し、島が清国など他の国の支配下でないことを確認、1895 年に尖閣諸島の領有を閣議決定。古賀氏の申請から約 10 年後の 1896 年（明治 29 年）に、政府は 30 年間の無償貸与を許可。  
この 1895 年は下関条約が締結された年であり、このとき遼東半島、台湾、澎湖諸島などが日本に割与された（ただし、遼東半島は三国干渉によって返還）。また、尖閣諸島は下関条約の対象ではなく、話題にもなっていない。
- ・古賀氏は 1897 年（明治 30 年）以降、大規模投資を行い、島の本格的開拓に着手した。アホウドリをはじめとする海鳥の羽毛採取、フカヒレ、ナマコ、珊瑚などの採取、さらには近海がカツオの好漁場だったため、鰹節工場も建設、ピーク時の 1909 年（明治 42 年）には 248 人が定住していた。
- ・1918 年（大正 7 年）古賀辰四郎氏死去（63 歳）、息子の善次氏が後を継ぐ。
- ・1919 年（大正 8 年）中国の漁民 31 人が尖閣諸島沖で遭難、古賀氏所有の船で救助される。翌年中国政府より「日本帝国沖縄県八重山群島尖閣列島」宛てに感謝状が贈られる。
- ・1926 年（大正 15 年）、30 年の借地期限が切れたので、古賀善次氏は 1931 年（昭和 6 年）払い下げ申請し、翌年許可される。
- ・1940 年（昭和 15 年）油の配給が絶たれ、工場閉鎖となり・・・島は元の無人になった。
- ・1951 年（昭和 26 年）サンフランシスコ講和条約によって、沖縄の一部として米国の施政下に入る。
- ・1969 年（昭和 44 年）国際連合アジア極東経済委員会による海洋調査で、イラクの埋蔵量に匹敵する大量の石油埋蔵量の可能性が報告される。
- ・1971 年（昭和 46 年）4 月 台湾が公式に領有権を主張。
- ・1971 年（昭和 46 年）12 月 中国が外務省声明で初めて領有権の主張をしたとされる。